

放課後児童クラブ

事業推進の方向性問う
学校との連携充実も指摘

議員 放課後児童健全育成事業については、重点事業と位置づけ、さらに開設を目指す自治体もある。まず、本市の現状を聞きたい。

市民部長 現在、二八の小学校区の中で、二二の放課後児童クラブが開設されている。形態は各クラブへの委託事業であり、主に父母会と指導員によって運営されている。施設はほとんどが民間施設の借家である。



昼休みの校庭(松が丘小学校)

議員 今後、開設についてはどう考えているのか。

市民部長 各小学校区にひとつのクラブが開設されるのが当面の課題である。実施形態は委託事業を基本方針とし、運営面の調査を重ねたい。施設面ではさらに委託内容の充実にも努めるとともに、民間の保育所や幼稚園、自治会や団地の集会所等の公共的な施設の活用について研究したい。

議員 よりきめ細かな指導のため、児童保育の指導員と学校側との連携、子供のよすについて情報交換できるシステムが必要だと思いませんか。

学校教育部長 指導員と担任が情報交換したり、学校評議員を依頼している指導員から意見を頂いている学校もある。しかし、現状として日常的に円滑な連携が図られていない部分もあり、今後、より充実した連携が図れるよう進めていきたい。



サッカースクールと親善試合(14年5月)

議員 誘致の途で急ぎ、キャンプ実施協力金が必要となり、当初の予想を超えることもいくつか生じたが、セブンスターズクラブの支援金ボランティアの協力

サッカーW杯キャンプ地誘致
成果、事業費用など総括

議員 十四年度平塚市教育の方針の中で、幼・小・中・高の一体的な育成を進め、市民の期待と信頼にこたえる学校教育の実現に努め、さらに、生涯学習社会のよりよい構築を図ることが大切であると考えている。

議員 十四年度平塚市教育の方針の中で、幼・小・中・高の一体的な育成を進め、市民の期待と信頼にこたえる学校教育の実現に努め、さらに、生涯学習社会のよりよい構築を図ることが大切であると考えている。

議員 十四年度平塚市教育の方針の中で、幼・小・中・高の一体的な育成を進め、市民の期待と信頼にこたえる学校教育の実現に努め、さらに、生涯学習社会のよりよい構築を図ることが大切であると考えている。

議員 今後、この経験をサッカーのまちづくりはどう生かしていくのか。

社会教育部長 現在のところ、具体的な考えには至っていないが、基本的には、サッカーはもとよりスポーツ全体の振興に活用していきたいと考えている。また、多くのボランティアの活力や実績を広く意味でのまちづくりに生かしていくことも考えている。今回の経験を各種スポーツイベントなどに結びつけられるようなシステムづくりを検討していきたい。

編集後記



十二月定例議会では、情報公開条例の制定など、市民生活に直結した多くの課題について白熱した議論が展開されました。経済不況が長期化し、失業率の悪化が進行する社会状況を反映して、市議会では行政改革や市町村合併など、地方分権の流れに対応した施策課題について幅広い議論・検討を行っており、このような市議会の動きを市民の皆様により広く知っていただくために、今定例会から議会だよりを市のホームページに掲載いたします。本紙と併せてご活用いただければ幸いです。今後とも読みやすい紙面づくりに努めますので、ご愛読のほどよろしくお願い申し上げます。

編集委員
小泉由紀雄 金子修一
小泉春雄 細野忠彰
瀬下 浩 前田 晃
議長 佐藤 宏
副議長 奥山晴治
事務局 事務担当は、議会事務局 議事課調査担当、電話三二二一(内線二二六)です。

教育基本法の見直しも視野
中教審の中間報告に市の見解は

教育改革の動き

議員 十四年度から学校週五日制、新しい学習指導要領が完全実施となった。教育改革は最も大切な国家戦略であるが、中央教育審議会の「新しい

時代のふさわしい教育基本法と教育振興基本計画の在り方について(中間報告)」によると、教育基本法の見直しも議論の対象とするなど、改革への強い意欲を感じる。これについて、教育委員会の見解を聞きたい。

教育長 これまでの小・中・高・大学という個別の教育改革論から、各段階を通じた大きな視点に立つて、人間形成の実を上げることが大切であるという認識に立った新たな動きである。ある意味では、将来を見通した教育の構造改革が始まるものとして、とらえられ、本市としても確かな学力の向上、豊かな心の育成を進め、市民の期待と信頼にこたえる学校教育の実現に努め、さらに、生涯学習社会のよりよい構築を図ることが大切であると考えている。

中の一貫性のある教育について、相互に協力しあう体制づくりに努めるとしているが、どのように連携強化を図っているのか。

学校教育部長 幼稚園教育要領および学習指導要領において、小学校と幼稚園との連携・交流を図ることが以前より明示された。そのためにそれぞれの教員が共通の子供理解をもち、お互いの教育について理解を深める

ことが重要であり、そのひとつとして幼・保・小・中交流学習研究会を開催している。

議員 具体的な取り組みについて聞きたい。

学校教育部長 幼・保・小・中交流学習研究会において、お互いの教育内容を公開し、意見交換によりそれぞれの立場を理解し、指導に生かして効果を上げている。さらに、中学校教師が小学校で授業を行う取り組みも始まっている。また、十四年度から開始した小学校訪問計画には中学校教師も参加し、より充実した連携を目指して進めている。

障害児学級

教員・介助員の
配置状況尋ねる

学級の人数とその実態によって配置されている。また、担任の人数も考慮して総合的に判断される。

議員 年度の途中で障害児学級の児童・生徒数が増えた場合、教員、介助員は増員されるのか。

学校教育部長 県は国の基準に上乗せして障害児学級の教員配置をしている。年度途中の増加はその状況に応じた対応となる。また、介助員の年度途中の増加は難しく、介助の仕方の工夫や学校全体での支援体制の検討などを依頼している。

「ことばの教室」
議員 聞こえやことばに障害がある子供のために通級指導を行う「ことばの教室」について、中学生対象の通級指導が、十五年度は生徒数減少のため廃止されると聞くが状況と対策を伺いたい。

学校教育部長 指摘のように通級予定者の減により、県費教職員の配置が難しいという状況である。この教室の必要性は大きいと認識しており、存続について引き続き県へ要望していくが、極めて厳しいと受け止めている。存続できない場合には、指導が必要と思われる子供には専門的な指導が受けられるよう方策を考えているところである。

市議会を傍聴してみませんか

次回定例会のお知らせ



- ・2月21日(金) 定例会本会議(提案説明)
 - ・3月4日(火) 定例会本会議(代表・総括質問) ~7日(金)
 - ・3月10日(月) 総務経済・都市建設常任委員会 ~11日(火)
 - ・3月12日(水) 教育民生・環境厚生常任委員会 ~13日(木)
 - ・3月14日(金) 駅周辺・中心市街地活性化特別委員会
 - ・3月20日(月) 定例会本会議 最終日
- 湘南ケーブルネットワーク(SCN)で定例会本会議の様子はテレビ放映しています。
生中継は午前10時(予定)から2チャンネルで、録画放映は当日の午後7時(予定)から9チャンネルでご覧ください。